

たがい思い
～ちがいを受け入れる～

令和８年１０月９日（金）
調布市立上ノ原小学校
第５学年担任

今年度のスポーツ大会　第５学年種目について

今年度の第５学年種目は「学年リレー」と「団体演技（表現運動）」です。９月２８日からスポーツ大会特別時程が始まり、子どもたちは当日に向けて熱心に活動しています。スポーツ大会当日は子どもたちのステキな姿をご覧いただけると信じておりますが、毎年、課題意識をもっているのは「当日までの過程」を保護者の皆様に伝えることが難しいという点です。なので、**今回の学年だよりでは、「５年生がここまでどのように活動を進めてきたか」をお伝えさせていただきます。ぜひ、ご一読いただき、当日の姿に加えて、ここまでの活動の過程も含めて、子どもたちを称賛していただければ幸いです。よろしくお願いいたします。**

「学年全員リレー」について

いわゆる「運動会」では、長い間「徒競走」という走競技が実施されてきました。今でも保護者の皆様から「2019年以前の運動会に近いイメージで子どもたちが全力で競争する姿が見たい」というご要望をいただくこともあります。しかし、「徒競走」を実施してきた中で、各学校で多くの課題があったことも事実でした。例えば、「徒競走」のゴール地点で撮影された映像をお持ちになって「うちの子の順位がちがう。どうしてくれるんだ」とご指摘いただくことや、徒競走の順位が低かったことをばかにされてしまい、それから学校に登校できなくなる子どもが生じることなど、本来は「スポーツに親しむこと」や「スポーツを楽しむこと」が目的である「運動会」という学校行事が、子どもたちやご家族を苦しめる結果となってしまったこともありました。もちろん、「徒競走」の順位が良くて、運動会という行事でこそ活躍できていた子どももいたことは理解しています。しかし、学校としては「みんなが運動会を楽しめる行事にできないか」と、毎年のように悩み、考えてきました。

「どのような種目なら、様々な子どもがいる中で走競技を楽しめるのか」と会議を何度も実施してきました。その結果、上ノ原小学校では令和７年度から第５学年の走競技は「学年全員リレー」をすることに決定しました。学年の子どもたちを赤系の４色、白系の４色に分け、赤と白２色ずつの対抗リレーを実施します。「リレー」でも「私のせいで負けてしまった」と自分を責めてしまう子が生じる可能性はありますが、それ以上に**「チームで協力して、励まし合いながら競争を楽しんでくれること」を期待して、この種目を設定することになりました。**

子どもたちは、１学期の体育の授業でリレーに取り組んできています。その授業の中で、子どもたちと「走る能力（タイム）は、数時間しかない授業の中で『みんなが速くなること』は実現できないかもしれない。でも、バトンパスをなめらかにすることならばみんなが上手くなれるかもしれない」と確認して、「どのようにすれば、なめからにバトンパスをすることができるのか」を探究してきました。子どもたちは何度もバトンパスを繰り返す中で「走者の速さが重要なのではなく、次走者が前走者のスピードを捉えて、走り出すタイミングをコントロールできれば、なめからなバトンパスができる」ということに気付いてきました。

１学期の学びを、スポーツ大会のリレーにどれだけいかしてくれるのか、私たち教師にとっても未知数な部分が大きいですが、それでも**今回実施する「学年全員リレー」を通して、「１学期の学びが２学期の行事につながること」や「みんなで協力して競争を楽しむこと」を味わえることを願って、当日まで子どもたちの活動に寄り添っていきます。当日、一発勝負になるので、アクシデントや望んだ結果が出ないこともあるかもしれません。それでも、ぜひ子どもたちの「走る姿」を称賛していただければ幸いです。**

「団体演技（表現運動）」について

（１）「団体演技（表現運動）」の方向性

保護者の皆様は、運動会で行われる団体演技にどのような印象をおもちでしょうか。子どもたちが恥ずかしが

りながらも笑顔で踊る姿、可能な限り身体を全力で動かしている姿、実施後にやりきった表情を浮かべている姿といったプラスのイメージをもっている方もいらっしゃるかもしれません。一方で、ご自身の経験をふり返り、「やりたくなかった」「練習がつらかった」「恥ずかしかった」などとマイナスなイメージをもたれている方もいらっしゃるのではないでしょうか。思春期を迎える子どもたちの中には、団体演技に取り組むことに意欲的になれない子も多くいます。特に、自分たちが表現したくない内容であれば、さらに憂鬱になってしまう恐れがあります。そこで、**今年度は可能な限り多くの子どもが団体演技をすることに意味を見出して活動していけるように、自分たちで「どのようなことを表現したいか」考える機会をつくることにしました。**

活動を始めるにあたり、教師から「表現したい気持ちや願いを身体で表現するのが、表現運動です。例えば、フィギュアスケートでは、クラシック音楽の表現している世界を、スケーティングやジャンプで表現しています。選手が伝えたい願いに合った音楽の世界観をしっかりと表現しようと身体の動き（振り付け）が考えられています。みんながこれまで学校で見てきた団体演技のソーラン節にも、本来は意味があります。実は、ソーラン節は北海道のニシン漁の漁師さんたちが船を漕いだり、網を引いたりする作業のときに歌っていた作業唄が由来だと言われています。これらの例からもわかるように、その**表現運動をする人の気持ちや願いを身体で表現しようと取り組むのが、表現運動だと思います。なので、今年の団体演技では、私たち教師から『この内容に取り組みます』と伝えてみんなに取り組んでもらうのではなく、みんなで話し合って内容を決めていきたいと考えています。」**と伝えました。そして、**学年集会や学年目標実行委員の子どもたちとの検討によって決めた「たがい思い～ちがいを受け入れる～」という学年目標が「今、みんなが抱えている気持ちや願い」であることを確認しました。その後、第５学年の子どもたち全員にアンケート用紙を配り、「学年目標を表現するために何をするのか（音楽や振り付け）」について子どもたちからアイディアを貰うことにしました。アンケートを回収してからは、各学級からやりたいと願い出てくれたスポーツ大会実行委員とともに、団体演技の内容を決定していきました。**

（２）子どもたちから受け取ったアイディア

子どもたちからたくさんのアイディアが集まりました。しかし、どうしても学年全員で取り組んでいくためには、「選択」していく必要があります。**「選択」とは難しい行為です。何かひとつを選ぶということは、言い換えれば他の全ての可能性を捨てることになります。だからこそ、実行委員の子どもたちと最後まで「納得できた？」と確認をし合い、音楽と動き（振り付け）を決めていきました。そして、学年集会で第５学年全員に決めた音楽と動き（だいたいこのような動きをするというイメージ）を提案し、今年度の団体演技の内容が決定しました。子どもたちの中には、学年集会で合意した音楽、動きに戸惑いや不安や不満を抱えている子もいたかもしれません。それでも、実行委員の子どもたちが「みんなでやろう」と呼びかけ、一緒に取り組んでいくことにしました。**

可能な限り、子どもたちのアイディアをいかし、子どもたちの声を聞きながら、「今の第５学年の子どもたちだからできる団体演技」を目指そうと努めてきましたが、どうしても約**１３６**名の子どもたち全ての子どもの声（考え）を聞けたわけではありません。本当は心に抱えている本音があったけれど、みんなの前では発表することができなかった子もいるかもしれません。それでも、ここまでの話合いを通して、子どもたちは少しずつスポーツ大会という行事を我が事として考えられるようになってきているのではないかと、私たち教師は期待しています。また、もし、今回の団体演技の内容に不満を抱えている子どもがいたとしても、これから一部でもいいので今回の団体演技へ肯定的な気持ちをもってくれることを願うとともに、見守りサポートをしていきたいと考えています。**スポーツ大会までの期間もあと僅かとなりました。当日が近づくと、さらに子どもたちの中で様々な感情が生まれるかもしれません。ご家庭でも話題に挙がることがあるかと思いますが、ぜひ否定的ではなく肯定的に励まし、行事を通して子どもたちが様々な感情を学びに変えていけるようにお力添えいただけますよう、ご協力をお願いいたします。**

※衣装へのご協力、ありがとうございます。「**黒いＴシャツを使うこと**」も、実行委員の子どもたちのアイディアです。ご理解とご協力いただき、本当にありがとうございました。

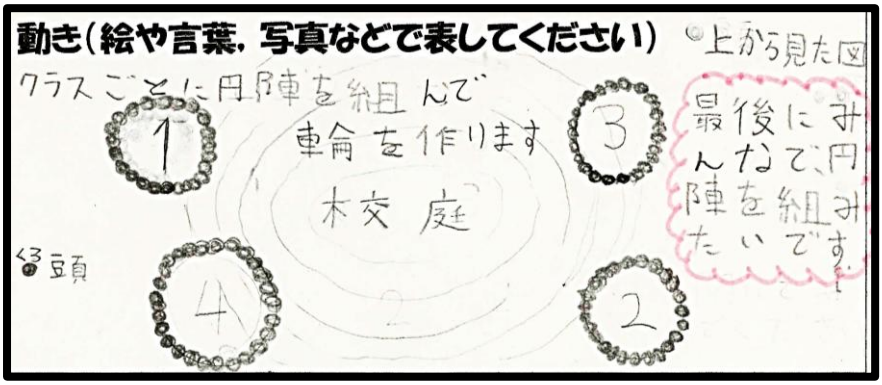
「子どもたちが出してくれたアイディア」

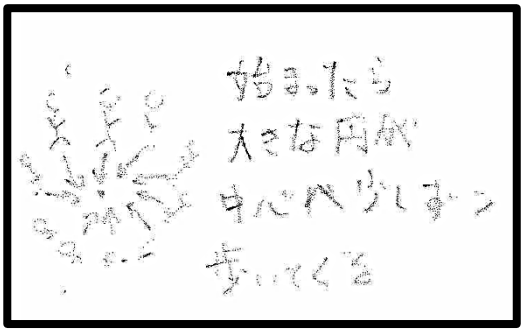
動き（絵や言葉，写真などで表してください）

みんなで手をつないだり
ハイタッチしたり、おじぎもしたりする。

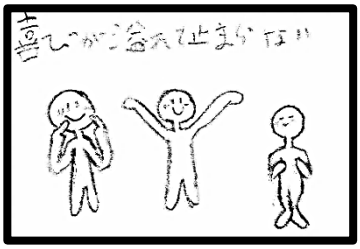


動き（絵や言葉，写真などで表してください）

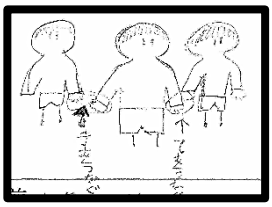




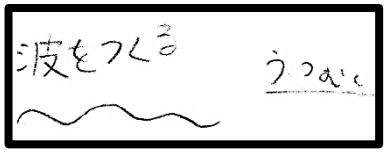
最初はみんなばらばらで　じょじょに3人、5人10人とつないで
最後はみんなで手をつなぎ
ハートをつくる



前半のうごき
あえて全員バラバラのポーズや異なるステップをふんで
「みんなの違い」を表現したいです。
後半のうごき
全員が1つの大きな生き物みたいに息を合わせたウェーブや
全員が重力するふりつけで一体感をみせたいです。



波をつくる　うつむく



ぼくのこと（ミセスグリーンアップル）

最初に「ぼくと君とでは何がちがう?」という歌詞から始まります。
なぜ自分はあの人になれないのだろうと思っていたが、最後の方はぼくはぼく。
自分のことは自分で決めていく。あの人とちがっていても自分は自分であの人はあの人
たがいに分かりあっていることが分かる歌詞になっていて「違う」ではなく「違い」や
ちがいを受けいれる」そんなテーマにピッタリだと思いました。

Don!!（緑黄色社会）

言葉が違っても見た目が違っても向き合って「違いを認めて」という歌詞が
学年目標と合っているからです。

みんなで手をつないで手をゆらすんじゃ

みんなで最後、手をつなぐ!!

アンケートから得たアイディアをもとに、実行委員の子どもたちを中心に、
子どもたちと演技の内容や音楽を決めていきました！